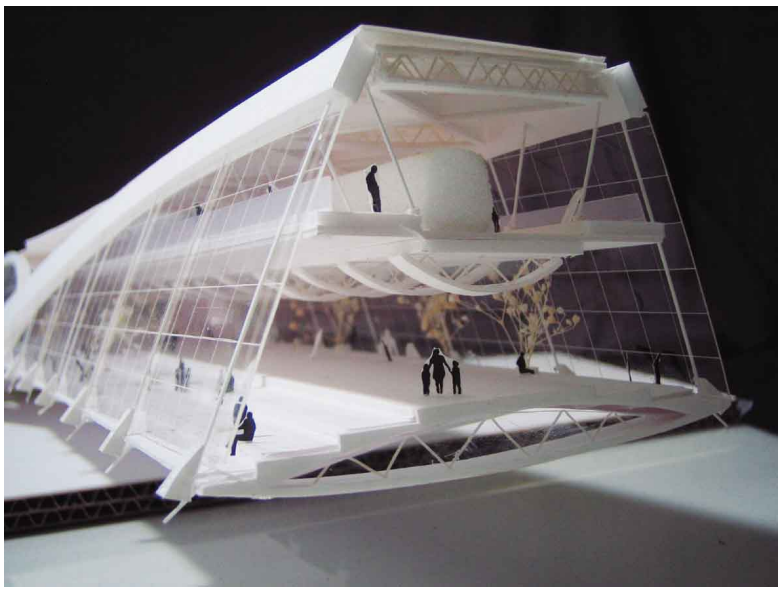
奨励賞

東京オリンピック拠点計画

水と緑と風の湾岸構想

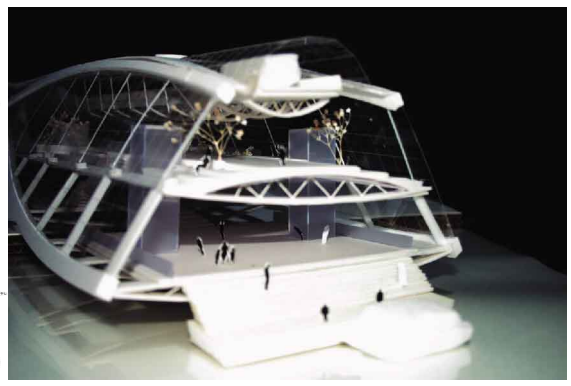
峰岸　啓介（みねぎし　けいすけ）

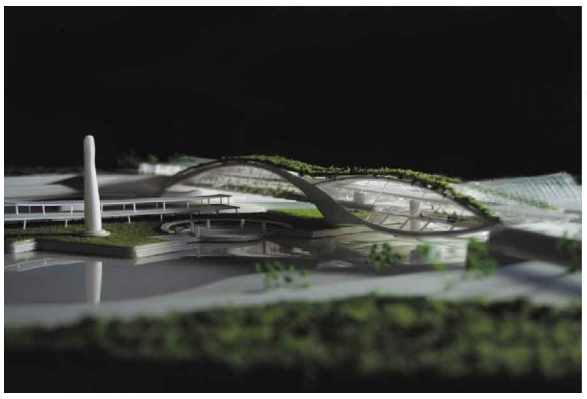
日本大学　理工学部　社会交通工学科

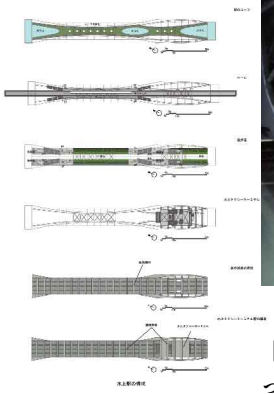


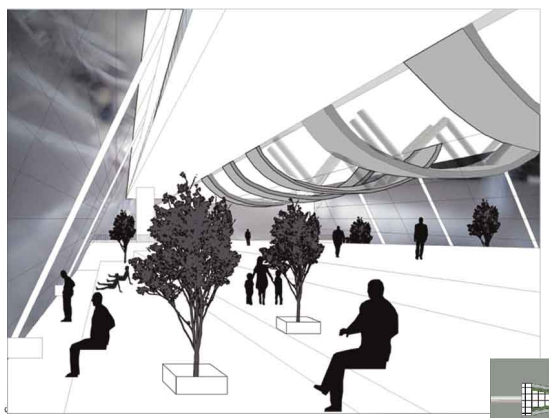
現在、2016年夏季オリンピックを東京都に招致する活動が進められている。2016年東京オリンピックのコンセプトの１つに環境があり、そのシンボルプロジェクトとして海の森を基点とした緑のネットワーク、これによる風の道を作り出す計画がある。

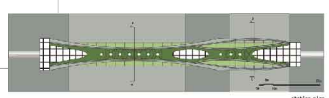
今回、これらプロジェクトに加え、水辺と交通を切り口として水上駅を核としたオリンピック拠点を提案し、2016年東京オリンピックのコンセプトをデザインによりシンボライズする。環境負荷の少ないゆりかもめが通り、水運の検討がなされているオリンピック選手村に隣接する東雲運河に緑と風、そして水とによる環境を形成する。環境の改善を図り、都市や地球の持続可能な発展に寄与することを目的とするとともに、水辺の賑わいを創出する。

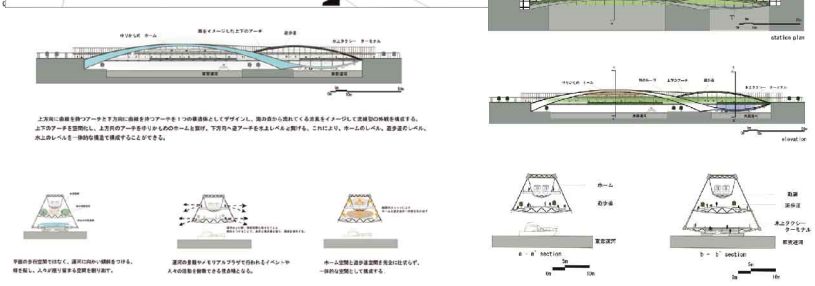












【講評】かって東京（江戸）は水上交通の発達した都市だった。しかし、44年前のオリンピクの時、その水上交通の上を利用して陸上交通の道を作った。この時から東京の自然破壊と温暖化が進んで行ったのである。それから52年後となる次々回オリンピックの誘致計画のコンセプトに環境・自然に配慮することが掲げられた。

本計画は、その一端を担う目的で、東雲運河に緑と風、そして水とによる環境を形成する橋を建設しようと考えた。橋は全体を透明の壁で囲い、力学的にも美しいアーチ構造の力強い骨組から２層あるいは３層の床を吊り構造とし、上から、ゆりかもめ交通、遊歩道、広場（待合）で構成しており自動車道が無いのが良い。水を観る・風を感じる為の橋であり、水上から見られる橋としても洗練されている。模型・図面の完成度も高く、このまま実施したくなる施設である。審査員の評価も高かったが、もう一歩大胆さ・スケールの大きさが必要ではないかとの意見があった。

今後の活躍を期待したい。

（審査員：竹下章治）